

だんだん倶楽部会報

北前船の寄港地として栄えた美しい港から釣りはいかがですか？



大社町鷺浦にある鷺浦渡船・小国屋
へ「光洋丸」の船長・米井洋さんとお
会いました。

鷺浦港は北前船や大阪商船の寄港地として栄えた昔の表玄関。風光明媚な港風景と風情ある町並みは県外、さらに海外の人も引き付けて止みません。今の時期は海ホタル（夜光虫）も楽しむことができます。

そんな素敵な港町で、釣り人のための渡船を運行している米井さんは現在48歳、大きな体に潮焼けした笑顔が意外とかわい。この仕事はお父さんの代から始まり2代目で、昔は5隻の船があったとのことですが、現在は愛する相棒、420馬力、14人乗りの「光洋丸」のみです。

地元の商業高校を卒業後は丸大食品、UCCフーズ等で営業マンとして、ちよっと気性の荒い岸和田、ちよっと怖いあいりん地区でルートセールスし、海とは関係ない肉やハムを扱っていらっしやいました。あの清原選手の実家の電気屋の前もよく通っていたそうです。

13年前にお父さんが突然倒れられ、仕事を辞めていきなり渡船の仕事に転職されましたが、最初はいろいろ教えてもらいながら修行し、2009年から一人前として仕事を開始されました。一番難しいのは船付けで、止めるタイミングを間違えると岩礁に激突するとのこと。

県内のお客さんはもちろん、東京、姫路、広島、岡山からも常連客があるそう。で、たくさん釣るの魚を釣って帰られる姿を見ることが一番嬉しいそう。女性客、ご夫婦での来船もあります。5月から10月の間営業運転され、日の出から日没まで、途中で釣れないと思ったら移動も自由。お一人3500円で、多い時は1日で50人の利用者があります。これからの時期はイサキが旬です。

冬場は漁師として素潜りでアワビやサザエを採られ、昔は18メートルも潜れる体力をお持ちだったと聞きました。今は少し浮力が付き過ぎかな笑。

取材が終わったら突然、その日釣りに来ていた人から携帯に電話が。場所を変わりたいとのこと。ついでに乗船させてもらい潮風を切っ走る光洋丸の乗り心地を体感しました。絶景です。それを見るだけでも体験の価値があります。そして岩礁に見事に船付けされる腕前も拝見させていただきました。昔、父の影響で多少釣りに興味を持ったことがありますが、太公望目指して再び活動を始めたい衝動が。誰か一緒にイサキを釣りませんか？



鷺浦渡船・小国屋さんの情報

【完全予約制】電話 090-1014-3500
ホームページ <http://kouyoumaru.web.fc2.com>

オラが町で出産できる環境をつくりたい！



島根大学医学部・産婦人科学の京哲（きょう たくる）教授にお話を
お聞きしました。

お生まれは福岡市。中高生時代は京都、大阪で過ごされ、大学を卒業後5年間は臨床一本でしたが、大阪大学の産婦人科病理研究所に入局され故井上正樹先生との出会いがきっかけとなり恐る恐る研究の道に足を踏み入れられました。ところが意外にもその面白さにはまって、シカゴに2年間留学もされ、念願のNBA観戦も叶い、研究三昧の日々を送られたそうです。その後、恩師に招へいされ金沢大学医学部で婦人科腫瘍研究に心血を注がれ、同時に婦人科悪性腫瘍手術にも傾倒、18年間金沢で過ごされ、2年前にご縁があってここ出雲に教授として着任されました。

ここ島根に来て真っ先に感じられたのは危機感とのこと。分娩施設が少なく、お産に関わる先生の高齢化、地元でお産ができない地域があるなど。全国で年間320〜330人しか産婦人科の医者が誕生しないのが現状ですが、入学予定者の段階からアプローチして若手産婦人科医師を増やすため精力的に活動されています。

そのための対策として、都会でないと高度先進医療を学べないとの不安を払しょくするために、日本で唯一ですが、20施設しかない子宮頸がんの内視鏡手術、7施設しかないダヴィンチ（ロボット）手術の両方がここで実施されています。患者さんの負担も軽く術後1週間で退院し仕事に復帰でき負担が軽減されます。

2006年に福島県で起こった医療事故をきっかけに、医師と施設の集約化を図り複数の医師が対応できる体制が始まりましたが、地方では実情に合わず医師の過疎化を招いています。「オラが町で出産できるようにしたい！」、これが先生の一番の願い。実際、奥出雲や邑南町、江津市などが分娩施設の閉鎖対象になっています。

「お産は究極の福祉」と声高におっしゃいます。人口対策の予算が少ない日本、地域に人が残るには安心してお産ができることが必要最低条件です。

先生からは、島根の方々は人柄がよく、大学の雰囲気も凄くいいと絶賛されました。そして、夢をお伺いしましたが「若い人材（産婦人科医師）を育て、島根が繁栄することとおっしゃいます。正に島根LOVE！素敵です。

先生は中学、高校、大学とバスケット部に所属され、金沢では中学校で監督もされたほどのスポーツマンで、ここ島大医学部でも指導をされています。最初にお会いした時の贅肉のないスマートでダンディーな雰囲気はそこから・・・（運動不足、脂肪たっぷりの私は比較になりません笑）

取材も終わり部屋を後にしようとしたところ、一枚の写真が目にとまりました。何とそれは6リッター、12気筒の古いペントレー。中古で購入されたもので、古い車をメンテし維持することが趣味ということが判明しました。乗り心地はどうか、内装は、エンジン音はと興味は尽きません。「今度一度の運転させてください・・・。」と言いたい気持ちを飲み込んで取材を終えました。

アームレスリングチャンピオンのパワー全開！



米子市にある(株)中海商興の山口維啓（まさひろ）社長を取材しました。

山口さんと出会った瞬間、第一印象は『体格いい・・・腕がめちゃくちゃ太い！・・・取っ組み合いしたら絶対になかなわない』完全に貫禄負けで取材が始まりました。

平成2年のお生まれで小学中学は野球三昧でポジションはキャッチャー。野球

の強豪倉吉北高校1年の時は甲子園に出場、と言ってもスタンドで応援。3年になるとキャプテンで4番を張るが残念ながら3回戦で敗退し甲子園への夢は叶わず。3年間、朝5時起きで倉吉まで電車通学、厳しい上下関係、黒でも白が当たり前の世界、意識がなくなるほどひたすら走る過酷な練習。これが少々のことでは折れない心を育てたとのこと。大学でも野球をするために茨城県の流通経済大学へ進学されましたが、全国から強豪がひしめき、苦手なランメニユーで標準タイムが切れず守備にも入れず、おまけにケガが多く指名打者でしか試合に出れない中、大好きだった野球が嫌いになったそうです。

大学卒業後は家業を手伝うために帰省、22歳で結婚、2年前に子どもさんも生まれ、昨年社長に就任し意識も激変し、人生で最も勉強した時期だったとのこと。

最近、地元紙でも紹介されましたが、米子市のアマチュアスポーツを紹介するフリーペーパー『YONAGOスポ探』を5000部創刊されました。A4サイズ全16ページには地元高校のアーチェリー部やトランポリンクラブ、鳥取だらすプロレスなど情報満載でワクワクして読むことができます。ありそうでなかった情報誌ということで反響は大きいそうです。いつかだんだん倶楽部会報とコラボ企画ができたら面白いですね。

さて、ここからがまた面白い話。山口さんはジムに通って体を鍛えていたが、2年前のある時、トレーナーから突然境港である『みなと祭り』のアームレスリングに出場するよう指令が。そして初心者なのに無差別級で見事優勝し、その勢いで鳥取県大会にも出場しこれも優勝という快挙を成し遂げられました。そして、20年前から活動している境港の『ドラゴンアーム』というチームに入ってトレーニングされています。

握力は80キロを超え、背筋も330キロの恵まれたパワーですが、握りが数ミリ狂っただけで力が入らないほど繊細で、長い時は4〜5分間格闘する過酷な競技でもあります。「曲げる」「吊り上げる」という左右の違う筋肉を一本の腕で使い分けるテクニックや、体重80キロの山口さんでも絶対に勝てない55キロの達人の話に夢中になりました。

山口さんは「何歳からでも筋肉は作れます。70歳からベンチプレス始めて5年で100キロ、80歳でスクワットで100キロ挙げれる猛者がいる」と聞きました。夢は全日本で表彰台へ上がり、アメリカ、ロシアにあるプロリーグへの参戦。実際、兵庫の金井義信選手は世界でトップテンに入る選手で握力は130キロの怪物。

山陰から世界チャンピオンが出るかもしれないと思うとワクワクします。最後に無謀にも山口さんに挑戦、ところがピクとませず惨敗。リベンジを誓い取材を終えました。



(株)中海商興さんの情報

米子市靴町1丁目1-3
電話 0859-33-7321

日本を代表するエレクトーンプレイヤー・岩内佐織さんの演奏に感動の嵐！



6月8日に出雲大社神楽殿で、岩内佐織さんのエレクトーン演奏、高須賀千江子さんの舞による奉納公演が400人近い観衆の前で行われました。

当日は日中とても蒸し暑く、天気予報でも夕方から雨の予想。開演前から激しい雨が降り始めましたが、何と開場5分前にピタリと雨が止み、まるでみそぎを受けたかのように清々しい雰囲気に変りました。

オープニングは「オペラ座の怪人」。一気に会場の雰囲気は岩内ワールドに。オリジナル曲を中心に『ご縁』『感謝』『祈り』の3つのテーマで、演奏と地元在住の高須賀さんの舞のコラボを感激しながら楽しむことができました。

今回は岩内さんに電話で独占インタビューを敢行しました。小学1年生までは奈良にお住まいで、4歳の時に何か習い事をということで近所のエレクトーン教室に行かれたのが全ての始まり。特にご両親が音楽家という訳ではなく、唯一あるとすればお父さんが大学でグリーククラブに所属されていたことぐらい。

初めてのレッスンで譜面と鍵盤を照らし合わせて音階、ト音・ヘ音記号を教えてもらい、次のレッスンでは両手でバイエルが弾けたといえますから驚きです。この世界に詳しい人にお聞きすると岩内さんの演奏は野球界でいえばイチロー的存在と断言されました。そこで、「どうしてそんなに上達したのですか？」と尋ねると、岩内さんは「勘所がよかったのでは・・・」とあさりおっしゃいます。

幼稚園の頃、スینگジャズ系の曲を弾いていきなり奈良県代表に。それが指導者の目に止まり、大阪の先生を紹介され1時間かけて通う生活が始まります。それは京都に引っ越されても続き、結局大学を卒業するまで続いたそうです。

15歳以下の子どもたちがオリジナル曲を発表するJOCジュニア・オリジナル・コンサートにも6歳から参加されました。小学5年で作曲した『銀河トレイン』がワシントンシヨナル交響楽団の指揮者ロストロポーヴィッチ氏の目に止まり、ユニセフの招きで日本人として初の国連総会議場での交響楽団との共演を6年生の時に実現されましたが、アンコールで『星条旗よ永遠なれ』を演奏しはじめたところ、予定外のことが起こります。途中からシンフォニーが即興で入ってきて満席の会場が感動に包まれ熱気のある拍手が鳴り止まなかったのです。NHKでニュース速報が流れたほどの快挙でした。その時のレコードを今でもお持ちですが、是非聴いてみたいのです。

さらに、小学5年生の時はインドネシア、タイに親善大使として招かれ、タイ王室の王女の前で演奏されたり、15歳以下の部で日本一に、正に破竹の勢いの活躍。ところが、中学生になったら突然納得のいく曲が作れなくなりました。あまりに幼い時からひのき舞台に上がって頂点を極めてしまい、純粹無垢だった少女時代から、理性やルールなどで縛られる思春期に突入したことで、「考えること」と「感性のバランスが崩れたからと分析されました。その時は本気で音楽を辞めたいと思われましたが、それを食い止めたのは曲ができた時の感動があまりにも大きく、それは捨てがたかったと回顧されました。

将来プロとして音楽の道に進むかどうか、自分の気持ちを確かめるために敢えて普通高校へ入学。音楽と少し距離を置くことで「心の底からエレクトーンが好きだ」との確信が生まれたそうです。そして関西の音大に進学、2年生で15万人がエントリーする世界大会(香港)でグランプリの栄冠に輝き、3年生には演奏活動を開始、ポニーキャニオンからデイズニーの3枚組CDを発売。卒業後はヤマハと専属契約を結び楽譜の製作、イタリア、イギリス、ウィーン、オーストラリア、タイ、インドネシア、スロベニア、ハンガリーなどへ演奏旅行。ミュージカルでの演奏もデビュー。当時は多く、月に12〜13回、年間100本もこなされたこともあり。正に日本・・・いや世界のトッププレイヤーとして活躍の場を広げられました。

実は今回発売されたCD『未来のトビウ』は子育てで10年間仕事をセーブした後、大手レーベルではなく自主制作にこだわりの、パワーがあるうちに自分がこの世から消えても、生きて証しとして残るエンディングノートならぬエンディングメモディーとしての娘さんへのメッセージ。娘さんには「あなたの姉妹ですよ」と言って渡されました。皆さんもこのCDを聴いて未来のトビウを勇気を持つて聞いてみませんか？こんな素晴らしい演奏を聴いてエレクトーンを習おうとする自分が(笑)・・・でも皆さんそんな気持ちになったと思います。



15歳の落語家志望の少年の決意と夢に心動かされる！



神戸から毎月出雲に来て商店街で落語会をしている少年取材しました。

鯉鮎亭(りねんてい) ボタンこと三好信悟さんは15歳。5歳の時、親戚の人が落語をやっているのを見てとりこになったそうです。

9歳にして落語会で高座に上がり、十数人のお客さんの前で古典落語『代脈』をしたそうですが、緊張のあまり途中、頭が真っ白になりながら、10分間を自力でつないで持ち直し演じ切りました。何という度胸でしょう。10分の演題は原稿用紙10枚の分量。これを文字で憶えるというリズム感が悪くなり下手になるので、落語会に行くと音を聴いて「間」と共に憶えるそうです。

新ネタを憶える時は1日8時間も練習すること。記憶力が特別いい訳ではないので、台本を作り5分程度に分割して記憶し、つなげる方法で記憶します。12歳ですでにオリジナルの斬も作ったといえますから驚きです。現在レパートリーは50本で、オリジナルが5本あります。新作を作った時の逸話を聞きました。『あべのハルカス』オープンのタリ記事を読んでひらめきが。古典落語の『つる』を、あべのハルカスに置き換えて初オリジナル落語を作ってしまったそうです。

落語の中には『胸乱の幸助』など、40分の大作もありますが、このクラスになると30分落語を何本か憶えるより大変と聞きました。11歳でプロになる決意し、大阪のアマチュアの一門に入ってプロになる準備をしています。尊敬する落語家を聞いたところ、上方落語250人全員を尊敬しているとのこと。その中でずば抜けた人間力に圧倒されたのが、笑福亭鶴瓶師匠です。打ち上げに誘ってもらったが、裏表のなく人柄が本当に素晴らしいと絶賛。人が好きだからこの仕事をやってる、だからこの人の周りは面白い人がたくさん集まる、大いに納得したそうです。今でも年間100本程度高座に立っているのも凄いですね。

よくお世話になっている人には桂九雀、笑福亭銀瓶、桂枝三郎・・・今の時代は中卒でこの世界に入る人は皆無、大卒が圧倒的、でも枝雀師匠からは中卒でいいから頑張れとエールを送ってもらったといいます。

一番楽しかったのは今年3月のポーランド、フランスでの公演。特にフランスで古典落語『寿限無』をフランス語でやったら凄くウケたそうです。日本人が笑うポイントより少し前に、次の展開を予期して笑うほどノリがいいそうです。ポーランドの国立大学・日本語学科では日本語でしたが「ちりとてちん」も大いにウケたとのこと。

出雲で落語会をするようになったのは、三重県で偶然出会った出雲在住の熱田糸帆さんとの縁から。さすが縁結びの国出雲の力ですね。投げ銭方式ですから実力勝負、ウケなかつたら旅費もままならない厳しい環境に自分を置いて修行中です。

もし中学を卒業してプロの世界に入ることができても、3年間は修行の身、初舞台も芽が出るかどうかでマチマチ。全く保証のない世界に彼はこれから勇気をもって飛び込むとうしています。いずれは海外でも活動をしたいと夢も描いています。是非とも彼の落語を一度聴いて応援してあげてください。15歳ながら彼には挑戦者の輝きが溢れていて勇気をもらいました。

出雲市今市町の『ツドリバ・R.O.』で12月まで第2土曜日の19時から落語会が行われていますが、他にも落語ができる場所を探していきたいと思いますのでご協力をお願いします。

鯉鮎亭ボタンさんの情報

メール botan34469@gmail.com
フェイスブック 【鯉鮎亭ボタン】

編集長のひとこと

このたび熊本地震への義援金を募り、総額103,000円のご浄財をいただきました。熊本県庁へ直接振り込ませていただきましたことをこの場を借りてご報告いたします。ご協力誠にありがとうございます。

さて、岩内佐織さんの奉納公演は地元の仲間で行行委員会を作った9ヵ月間準備して無事終了しましたが、トッププレイヤーにもかかわらずとも腰が低い謙虚なお方で素人集団の我々を見守ってくださいました。やはり世界トップクラスの人は素晴らしいです。それにしても応募者が殺到し、200人余りの方にお断りしなければならず申し訳ありませんでした。もう一度・・・いや何度でも生で聴きたいとの気持ちが収まらず、CDを聴き続けています。



先日、本会報で以前ご紹介しました「花」をテーマにした日本画を描き続けられている東野布由美さんの展示会に行ってきた。素晴らしかったですが、その中で特に気に入ったのがこの絵、写真ではうまく伝えきれないのが残念ですが・・・一目ぼれです。

ではここからまた3歳のハーフの孫の話題を。休日に車に乗っていたら、しきりに「モロ最高！モロ最高！」と叫んでいます。

まだ3歳の女の子がこんな言葉を使っている？？まずい、と心配していたら、英語で、『モーターサイクル』（バイク）。英語の発音が良すぎて私には違う言葉に・・・幼稚園でも先生たちが英語を試されているよう・・・先日は両親とハワイに行つてゴキゲン。フラダンスモード全開です。



毎月無料でお送りします！ご希望の方はご連絡ください

〒693-0011 出雲市大津町5-9-7 浜村建設
TEL (0853)21-1673 FAX 21-7078
e-mail hama7@giga.ocn.ne.jp
だんだん倶楽部 http://www.dandanclub.jp/
浜村建設 http://www.hamaken-web.jp/